【効 能・効 果】

かぜの諸症状（鼻水、鼻づまり、くしゃみ、のどの痛み、せき、たん、悪寒、発熱、頭痛、関節の痛み、筋肉の痛み）の緩和

【用 法・用 量】

大人（15歳以上）……1回 1包
11歳以上 15歳未満 ……1回 ½包
7歳以上 11歳未満 ……1回 ½包
3歳以上 7歳未満 ……1回 ½包

1日3回食後なるべく30分以内に服用してください。

〔用法・用量に関する注意〕

1. 3歳未満の乳幼児には服用させないでください。
2. 小児に服用させる場合には、保護者の指導監督のもとに服用させてください。
3. 定められた用法用量を守ってください。

【成 分・分 量】1日量（3包）中

葛根湯乾燥エキス末……875mg
葛 根……2,160mg　桂 皮……810mg
生 姜……270mg　麻 黄……1,080mg
甘 草……540mg　芍 薬……810mg
大 棗……1,080mg
より製した乾燥エキス末

アセトアミノフェン……600mg　クロルフェニラミンマレイン酸塩……7.5mg
ジヒドロコデインリン酸塩…24mg　グアイフェネシン……150mg
無水カフェイン……120mg
その他、添加物として結晶セルロース、乳糖水和物、サッカリンナトリウム水和物、カルメロースカルシウム、ポビドン及びパレイショデンプンを含有する。

保管及び取扱い上の注意

(1) 直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に保管してください。
(2) 小児の手の届かない所に保管してください。
(3) 他の容器に入れ替えないでください。（誤用の原因になったり品質が変わります。）
(4) 1包を分割した残りを保管する場合には、袋の口を折りかえし保管し、2日以内に服用してください。
(5) 使用期限の過ぎた製品は服用しないでください。

〈ヒラミンK〉は、かぜの初期症状に特に効果を発揮する葛根湯乾燥エキスを配合している総胎剤の総合感冒薬です。

かぜは、寒気、関節・筋肉の痛みからはじまり、発熱、頭痛、鼻水、鼻づまり、のどの痛みなどの症状があらわれます。ヒラミンKは、これらの初期症状を漢方薬「葛根湯」と各種の合成薬で緩和します。栄養と休養とヒラミンKで、かぜをはやく追い出しましょう。

〈お問い合わせ先〉
本剤のご使用により、変わった症状があらわれるなど、何かお気付きの点がございましたら、お問い求めの薬局・薬店又は下記会社「相談窓口」までご連絡頂きますようお願い申し上げます。

製造販売元：松田薬品工業株式会社
本社・工場 愛媛県松山市河野中須賀318
電話（089）994-1333
受付時間 8:30～17:00（土、日、祝日を除く）

2013年3月改訂（記載要領変更に伴う改訂）

ご使用に際しては、この説明文書を必ずよんでください。
また、必要なときに読めるよう大切に保存してください。

第②類医薬品

葛根湯配合のかぜ薬

ヒラミンK

⚠ 使用上の注意

してはいけないこと（守らないと現在の症状が悪化したり、副作用・事故がおこりやすくなります）

1. 次の人は服用しないでください
(1) 本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人。
(2) 本剤又は他のかぜ薬、解熱鎮痛薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人。
2. 本剤を服用している間は次のいずれの医薬品も服用しないでください
他のかぜ薬、解熱鎮痛薬、鎮静薬、頭痛薬、抗ヒスタミン剤を含有する内服薬等（鼻炎用内服薬、乗物酔い薬、アレルギー用薬等）
3. 服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないでください
（眠気があらわれることがあります）
4. 授乳中の人は本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避けてください
5. 服用前後は飲酒しないでください
6. 長期連用しないでください

相談すること

1. 次の人は服用前に医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください
(1) 医師又は歯科医師の治療を受けている人。
(2) 妊婦又は妊娠していると思われる人。
(3) 高齢者。
(4) 薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人。
(5) 次の症状のある人。
高熱、非常に激しい頭痛
(6) 次の診断を受けた人。
甲状腺機能障害、糖尿病、心臓病、高血圧、肝臓病、胃腸病、
胃・十二指腸潰瘍、緑内障
2. 服用後、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性があるので、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください

関係臓器	症状	関係臓器	症状
皮膚	発疹・発赤、かゆみ	泌尿器	排尿困難
消化器	吐き気・嘔吐、食欲不振	その他	過度の体温低下
精神神経系	めまい		

まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の診療を受けてください

症状の名称	症状
ショック（アナフィラキシー）	服用後すぐに、皮膚のかゆみ、じんましん、声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、息苦しさ、動悸、意識の混濁等が生じるおそれがある。
皮膚粘膜眼症候群（スティーブンス・ジョンソン症候群）、中毒性表皮壊死融解症、多形紅斑及び急性汗疱性皮膚炎	高熱、目の充血、目やに、唇のただれ、のどの痛み、皮膚の広範囲の発疹・発赤、あくまったは皮膚上に小さなブツブツ（小水疱）が出る、全身がだるい、食欲がない等が持続したり、悪化する。
肝機能障害	発熱、発疹、全身のむくみ、全身のだるさ、持続的（数ヶ月間）に、下痢、食欲不振等があらわれる。
腎機能障害	発熱、かゆみ、発疹、黄疸（皮膚や白目が黄色くなる）、尿の減少、全身のだるさ、食欲不振等があらわれる。
間質性肺炎	咳嗽を上ったり、少し運動をしたりすると息切れがする・息苦しくなる、空せき、発熱等がかぜと、これらが長くあらわれたり、悪化したりする。
ぜんそく	息をするとゼーゼー、ヒューヒューと鳴る、息苦しい等があらわれる。
再生不良性貧血	青あざ、鼻血、歯ぐきの出血、発熱、皮膚や粘膜が青白くみえる、眩暈感、動悸、息切れ、血圧が著しくなりくらっとする、意識等があらわれる。
無顆粒球症	突然の高熱、さむけ、のどの痛み等があらわれる。

3. 服用後、次の症状があらわれることがあるので、このような症状の持続又は増強が見られた場合には、服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください
便秘、口のかわき、眠気
4. 5～6日服用しても症状がよくならない場合は服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください